

フィリピン保健医療支援事業

金子千恵

私は、2016年11月から2017年5月まで、日本赤十字社が支援するフィリピン保健医療支援事業の事業チームの一員として、ヌエヴァヴィスカヤ州支部に所属し活動を行いました。

事業地のヌエヴァヴィスカヤ州カヤバ郡は標高1000～2000mの山間にあり、車両だけではアクセスできない村もまだ多い為、時にはハイキングで5時間かけて訪れることもありました。山に囲まれた穏やかで美しい地域で、まだ水道も電気もガスも普及していない地域もありますが、アウトドアやハイキングの好きな私にはとても楽しい村滞在でした。

カヤバ郡の村々には助産師が駐在し簡単な処置や健康相談を受ける小さな保健所はありますが、医師はおらず近隣の病院まで半日以上かかります。そのためここでは住民自身による病気の予防または異常への初期対応、健康の促進をすることが重要になります。私達事業チームは村々を訪問し、村でよく起こる病気の症状や対処法、予防法を学び身につけられるよう健康教育を実施したり、子供達が衛生的な習慣を身につけられるよう教育の促進をしたり、救急法講習を行ったりしました。

これらの活動の中心になるのは、村の地域保健ボランティアです。主に農業に従事する彼・彼女らが空き時間を利用してこれらの活動に参加し、保健活動を行ったり村人に教育・普及をします。普及は、村の集会を利用したり、各世帯を訪問して行われます。同じ村とは

いえ2～4時間かかる世帯もあり、生活の合間に活動を行うことは大変ではありますが、「自分たちの村の健康を守りたい」「村の役に立ちたい」という思いで活動されています。私達も彼らの熱意や忍耐力に感銘を受けることが度々ありました。地域保健ボランティアや村の助産師、地域の人々との交流によりその地域の生活を知ること、より良い教育やサポートに繋げることもできました。このように、地域の一員のような気持ちで活動に参加できたことで、充実した日々を送れました。そして帰国した今も、この活動によりカヤパ郡の人々がより健康で幸せな生活を送れることを願っています。

